令和 7 年 4 月 15 日
茨城県病害虫防除所

病害虫速報 No. 2

コムギ赤かび病の防除を適期に行いましょう！

［現在の状況］

① 4 月上旬現在、農業研究所および病害虫防除所の調査圃場におけるコムギの予測出穂期、赤かび病の予測防除適期を表 1 に示した。

② 4 月 10 日発表の気象庁の気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想されている。今後の気温が平年より 2℃高く推移した場合、表 1 に記載した出穂期および防除適期は 1～2 日早まる可能性がある。

表 1　農業研究所および病害虫防除所の調査圃場におけるコムギ（さとのそら、ゆめかおり、きぬの波）の予測出穂期と赤かび病の予測防除適期　（令和 7 年 4 月 7 日現在）

品種	地域	調査地点	播種期	予測出穂期[1)]	予測防除適期[2)]
さとのそら	県央	水戸市上国井町	11/ 5	4/19[3)]	4/26～4/29
			11/20	4/25[3)]	5/ 2～5/ 5
	県南	龍ケ崎市大徳町	11/14	4/10[3)]	4/17～4/20
			11/20	4/12[3)]	4/19～4/22
		つくば市大形	12/ 5	4/21	4/28～5/ 1
		つくばみらい市市野深	12/ 4	4/19	4/26～4/29
	県西	結城市結城	11/20	4/22	4/29～5/ 2
		下妻市高道祖	11/12	4/19	4/26～4/29
		桜川市真壁町原方	12/13	5/ 4	5/11～5/14
		八千代町高崎	11/26	4/30	5/ 7～5/10
ゆめかおり	県央	水戸市上国井町	11/11	4/23[3)]	4/30～5/ 3
	県西	筑西市野田	11/17	4/24	5/ 1～5/ 4
きぬの波	県西	常総市三坂町	11/20	4/20	4/27～4/30
		筑西市野田	11/14	4/18	4/25～4/28
		桜川市加茂部	11/30	5/ 1	5/ 8～5/11

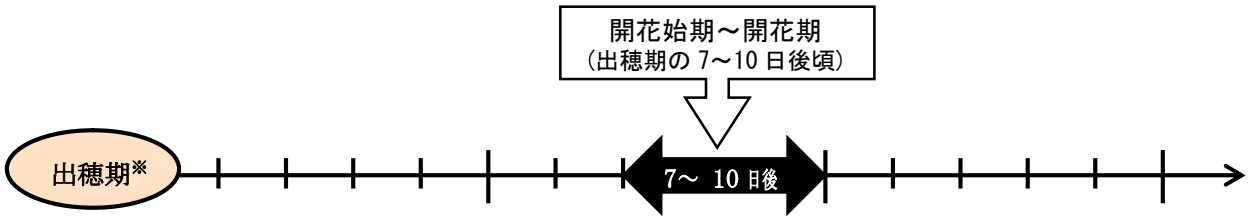
1)「さとのそら」および「ゆめかおり」の出穂期は、農業研究所ホームページに掲載されている「麦類主要品種の主稈長による茎立ち期、幼穂長による出穂期予測法」の計算式を用いて予測した。「きぬの波」の出穂期は、「さとのそら」として予測出穂期を算出し、「令和 6 年度茨城県主要農作物等奨励品種特性表」に基づき「さとのそら」より 1 日早い日とした。
2)予測防除適期は、出穂期の 7～10 日後とした。
3)農研速報（4/4、4/9 発行）のデータを用いた。

［防除対策］

① コムギの赤かび病の防除適期は、開花始期～開花期（出穂期の 7～10 日後頃）である（図）。予測される出穂期および防除適期は品種や播種期によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除する。

② 赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適条件は、「日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上の条件を満たし、湿度 80%以上の日か降雨日とその翌日」である。飛散好適条件が続く場合は、1 回目の薬剤散布 7～10 日後に 2 回目の散布を行う。

③ 薬剤を選定する際は、使用回数や収穫前日数に十分注意する（表 2）。また、2 回以上散布する際は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を用いる。



※出穂期：圃場全体の 40～50%が出穂した日。

図　コムギ赤かび病の防除適期

表 2　コムギ赤かび病に登録のある主な薬剤

（令和7年4月1日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法「無人航空機による散布」の適用[1]	FRACコード[3]
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	無[2]	1
チルト乳剤25	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	有	3
シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	有	
ワークアップフロアブル	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	有	
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内	無	11

1）「無人航空機による散布」の場合、希釈倍数等が通常散布とは異なるので十分注意する。
2）ただしトップジンＭゾルは、使用方法「無人航空機による散布」の適用がある。
3）殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）により、殺菌剤の有効成分の作用機構を分類し、コード化したもの。

（注）農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。